



○「自分らしく生きる」

LGBTの権利を主張する際によく用いられる6色の旗→

先日「LGBTQ+」をテーマに、松江市在住のLGBT講師、佐藤みどり氏を招いて、松江東高校の教員研修会を開催しました。

研修では、性別という概念が、体の性別（戸籍上の性別とも言えるかもしれませんが）だけでなく、自認する性別である心の性別、そして好きになる性別、服装など表現する性別などがあることにあ



らためて気づきました。好きになる性別がない人もいます。他者に恋愛感情を抱かないアロマンティックと呼ばれる人などです。つまり人を性別によって区分けすることができないし、そもそも人は多種多様であるのです。LGBTの権利を主張する際によく用いられるレインボーフラッグも6色が明確ではなく色の境目もはっきりと分かれていないそうです。だんだんと色が変わるグラデーションであり、それが多様であることを示しています。

昨年度の校長室だより第7号で、牧野富太郎博士の話から、「人類を含めた多くの生命にとって欠かすことの出来ない命の土台が生物（動植物）の多様性であり、地球上において、自分一人、ただ一種だけで生きていくことはできない。多様性を維持する上で植物の保全は大事なこと」という話をしました。博士の言葉で「雑草という名の草はない」というのは有名ですが、そもそもすべての草花には名前があり、それぞれの役割や存在意義があります。人間にもそれぞれ名前があり個性があり役割も存在意義もあります。

LGBTQ+とは、L（女性として女性が好きな人）、G（男性として男性が好きな人）、B（男性と女性どちらも好きになる人）、T（トランスジェンダー、生まれたときに割り当てられた性とは違う性を自認している人）、Q（Questioning/Queer、自分の性のあり方が分からない、決めていない人）、+（プラス、多様な性でLGBTQにカテゴライズされない人）という性的マイノリティー（少数派）の人を表現する用語ですが、そもそも10人に1人がLGBTQ+にあてはまるという調査結果もあります。これは左利きの割合と同じです。日本では80歳以上の割合も同じです。そういう意味では身近にいる存在なのです。

講師をお願いした佐藤みどり氏からの一番のメッセージは「自分らしく生きること」でした。自分らしく生きるとは、わがままに好き勝手に生きる事とは違います。また、その答えも個々で多様であると思います。大事なことは、教員や保護者など大人が、自分らしく生きている姿を見せること。それを見ながら生徒のみなさんが自分らしく生きるとはどういうことかしっかり考えることが大事だと言われました。松江東高校では「自立への道程」という言葉をグランドデザインに掲げています。それも含め自問自答してもらいたいです。